

主 題：正しい人間関係のカギ

聖書箇所：ペテロの手紙第一 2章18－25節

☆ しもべと主人の関係

私たちにとって一番難しいことは人間関係ではないでしょうか。神が立てられた国のリーダーを敬い法律に従うことが神に喜ばれることだと学びました。前回から続いて「従う」ことをペテロは教えて行きます。18節には「しもべたちよ。尊敬の心を込めて主人に服従しなさい。」とあります。この当時、ローマ帝国には6千万人くらいの奴隷が存在したと言われています。ここでは「奴隷」と言わず「しもべ」となっています。「しもべ」とは「家の中に住んでいた召使い」の意味で、「住む」ということばが元になって出たことばです。多くは家族の一員としてともに愛され、礼拝にも出ることが許されていました。休暇もあり、ある程度の権利も保証されていました。また、彼らの中にはある技能をもった者もいたようです。医師や音楽家などです。出エジプト21章には奴隷に関する教えが書かれています。奴隷を殺すようなことがあるなら、必ず復讐されるとか、けがをさせたなら代償として自由の身にさせるなどと書かれています。しかし、あくまで主人に従う「しもべ」です。主人を尊敬し、心から喜んで従う、それが「しもべ」の責任なのです。たとえその主人が横暴であっても従いなさいと言います。これがペテロが「しもべ」に対して教えることです。

今はこのような奴隷制度はありませんが、この社会にあつて私たちはいろいろな上下関係の中に生きています。どのような環境にあつても、どのような難しい上司であつても、その人を敬い従いなさいというのが神の命じていることです。そんなことは無理だ…と。確かに、私たちの力ではできないことです。しかし、神が命じられた以上、それを実践する力を神が備えてくださるのです。私たちは神の助けによって「従う」ことができるのです。

そして、実践してゆくために必要なことは何なのかをペテロは教えて行きます。

・尊敬の心を込めて

18節にある「尊敬の心を込めて」とは「恐れをもって」ということです。この「恐れる」ということばは、1：17に「恐れかしこんで過ごしなさい」、2：17「神を恐れ、王を尊びなさい」、3：2にも「神を恐れかしこむ清い生き方」とあります。自分の上に立つ人への尊敬は大切なことです。しかし、ここでペテロが言うのは、上司だけでなく、神に対する「恐れ」を言っているのです。私たちに大切なことは「主を恐れる」ことです。神を敬いながら生きてゆくこと、神への深い尊敬は神に従ってゆきたいという思いを起こします。私たちの本当の主人は神だからです。

また、神への深い尊敬は罪を憎むものへと私たちを変えて行きます。地上の主人よりはるかに優れた主に従うゆえにそのように変えられるのです。しかし、例外があることを覚えなければなりません。それは、主への反抗を強要される時です。みことばに反することを強いられるときは、それに従わない強い意志を貫くべきです。私たちは救われた目的をいつもしっかり覚えていることが必要です。2：9に書かれているように、「…やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるため」です。それは「従う」ことによって現わされて行きます。

・主に従う理由

19、20節にそれが書かれています。それが「神に喜ばれることだから」です。「従う」ことのその原動力は「神の前における良心のゆえに、」と、これは「神の前における良心のために」ということですが、良心が証すると言うのです。この良心は神によって与えられ、神に支配されているからです。「従う」ことは神への霊的知識によって成されてゆきます。不当な中にも喜んで従ってゆく、その勝利の基は神への信頼、確信です。神の真理が私を励まし動かして行くのです。神の真理とは神の全知全能であり、遍在であり、神が正しい審判を下されるということなどですが、これらが私たちの霊的知識なのです。

・イエス・キリストの歩みについて

21－25節でペテロは、イエス・キリストの歩みから私たちに教えて行きます。それが私たちの最高の模範だからです。あなたが救い出されたのは神に忠実に生きるためです。それによって神のすばらしさが証されるからです。それは「義のために苦しむ生活へと招き入れてくださる」と言い換えることができます。なぜなら、救われた私たちは世に生きて、世との摩擦が起こりますが、そのことによって

神のしもべであることが明らかにされるからです。そのために必要なものはすでに備えられているのです。信じたときに私たちのうちに与えられた聖霊であり、また信仰の兄弟姉妹です。

ここに「模範」とあるのは、子どもが字をまねる、そのことから見本を模写するという意味です。キリストは私たちが模写すべき完全なお手本なのです。キリストが受けられた苦しみはすべて私のためだと、そのことをペテロは知っているのです。だから、キリストゆえの苦しみ、不当な扱いは喜んで受けたのです。使徒の働き 5 : 40, 41 に「使徒たちを呼んで、彼らをむちで打ち、イエスの名によって語ってはならないと言い渡したうで釈放した。そこで、使徒たちは、御名のためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜びながら、議会から出て行った。」とある通りです。

パウロの務めを見ましょう。II テモテ 1 : 11, 12 「そのために、私はこのような苦しみにも会っています。しかし、私はそれを恥とは思っていません。というのは、私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができると確信しているからです。あなたは、キリスト・イエスにある信仰と愛をもって、私から聞いた健全なことばを手本にしてください。」と、神の審判の日に正しい報いがあること、永遠のいのちと神の審判、それはパウロに神と個人的につながった確信があるからそのように言うのです。

《キリストご自身とは》

- ・罪を犯したことがなく：まったく聖く正しいお方です。「その口に何の偽りも見出されませんでした。」とこの「見出されませんでした」の前に否定語が使われています。これは、慎重に綿密に調べたあとの結果を言います。「罪はない」と。イザヤ 53 : 9 には「…彼は暴虐を行なわず、その口に欺きはなかったが。」とあります。イザヤ 53 章に書かれていることは旧約における救世主に対する預言です。
- ・常に神に喜ばれる選択をした：23 節「ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、」と外側からくり返しくり返し受ける圧迫を、すべて神にお任せになったのです。自分が神に正しくあることが自分の責任だとしたからです。
- ・犠牲：自分からすすんで十字架にかかられました。それは私たちの罪をその身に負うためです。私に代わってさばきを受けてくださった、身代わりとなってくださったのです。II コリント 5 : 21 「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。」、ガラテヤ 3 : 13 「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、『木にかけられる者はすべてののろわれたものである。』と書いてあるからです。」、「のろわれた者」は私たちすべてです。一人として例外はありません。私たちは汚れ果てた者です。神の祝福をいただく資格などないのです。永遠のさばきがあるだけです。そのような私たちなのです。私たちが受けるべきさばきをさばき主である神が代わって受けてくださった、これが神の愛であり、神の聖さなのです。

24 節の中ほどにこの犠牲の《目的》が書かれています。それは「私たちが罪を離れ、義のために生きるため」です。これが本当のクリスチャンの定義です。また、ローマ 6 : 2 には「絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。」と、「悔い改めて新しく生まれ変わった」この方向転換が教えられているのです。「神に喜ばれたい」、これが変化の現われなのです。

ローマ 6 : 12 - 22 を見てください。「12 ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。13 また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。14 というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下ではなく、恵みの中にあるからです。15 それではどうなのでしょう。私たちは、律法の下ではなく、恵みの中にあるのだから罪を犯そう、ということになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。19 あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささげて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。20 罪の奴隷であった時は、あなたがたは義については、自由にふるまっていました。21 その当時、今ではあなたがたが恥じているそのようなものから、何か良い実を得たのでしょうか。それらのものの行き着く所は死です。22 しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得

たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。」

新生の条件は「キリストの打ち傷のゆえ」です。これは血がしたたるような傷です。イザヤ53：5に「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」とある通りです。そして、続いてあるように「私たちはみな、羊のようにさまよって」いたのです。正しい道からはずれていたのです。ずっとそのようであった、それが継続していたと言います。羊飼いはいのちがけで羊を守ります。神は私たちの牧者です。羊である私たちのすべての必要を与え満たし続けてくださるのです。私たちとともにいて助けてくださるのです。そして、天へと導いてくださる、その道を備えてくださるのです。私たちは本当の羊飼いのもとに帰ったとき、本当の平安と喜びがあるのです。

私たちは神からこのような祝福が与えられるのです。この神に私たちは応えて行きます。「従順に従う」ことによって…。